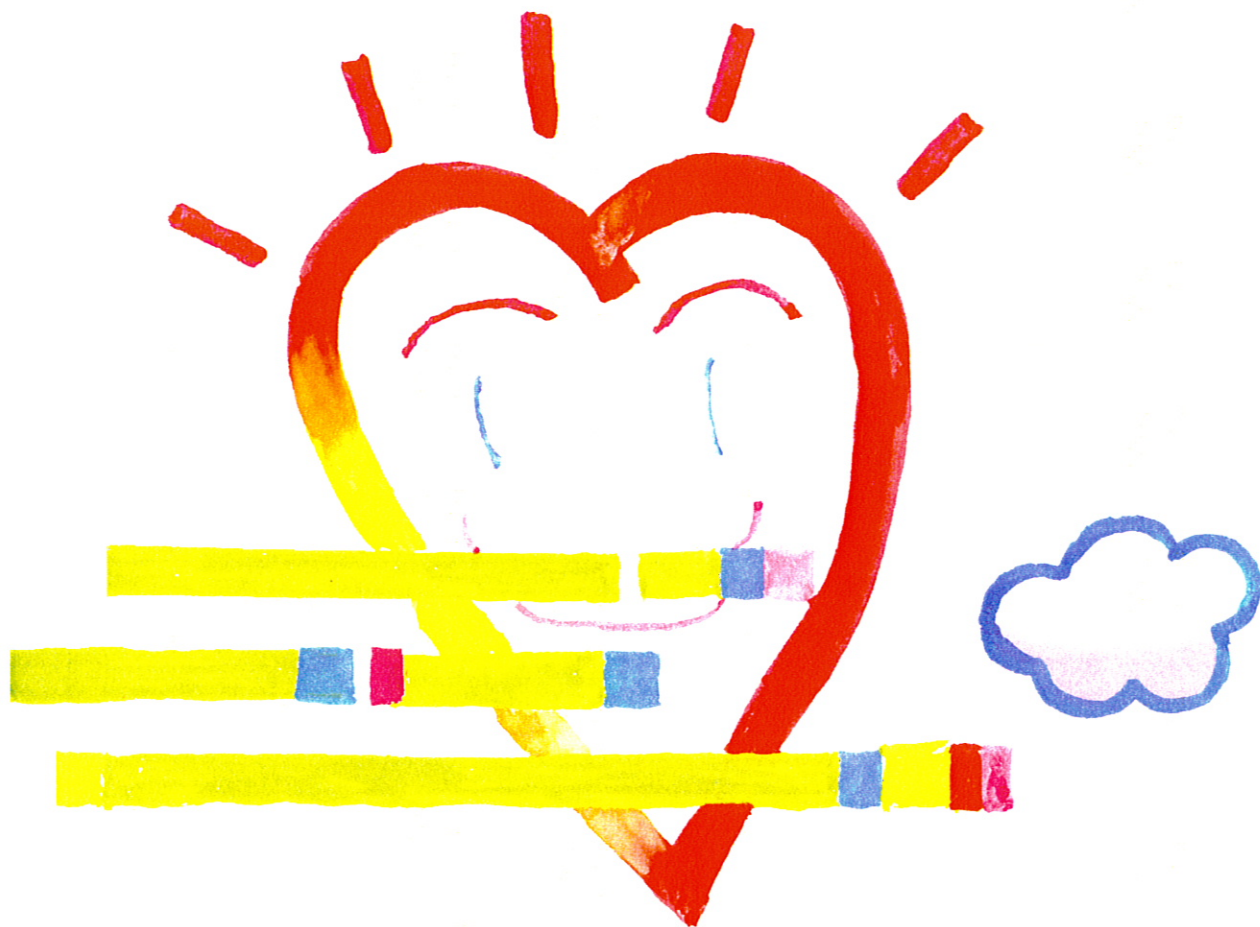


季刊

# へるぽ!

Vol.4 2009 SPRING



【特集】

報酬改定で  
開未来が  
けるか?



# 報酬改定で

# 未来が

# 開けるのか？

「介護従事者の処遇改善のための緊急特別対策」の二環として政府・与党が打ち出した、今回の改定は、制度発足後初のプラス改定となった。サ責やヘルパー、また利用者や家族にとって、今改定はどんな意味を持つのか？ 4つの事業所・団体に聞いてみた。

「経営者ですから報酬アップは歓迎ですが、全体で3%でしょう。そもそも私は訪問介護も通所介護も、従来の単位が低すぎるとは思っていませんし、単位が低くて給料が安いから介護業

**生活援助のアップは歓迎、身体介護は従来でも十分**

## 株式会社はっぴーライフ

代表取締役社長 辻川 泰史さん

〒180-0005 東京都武蔵野市御殿山1-2-4 セクシア吉祥寺御殿山2F  
TEL 0422-70-1601 FAX 0422-70-1602

●訪問介護  
常勤3人（うちサ責2人） 登録型21人  
利用者数約90人 平均要介護度2～3  
●居宅介護支援 ●通所介護  
ホームページ <http://www.hl-tokyo.com/>  
デイサービス検索サイト「デイケンサク.com」も運営  
<http://www.daykensaku.com/>  
辻川泰史BLOG～毎日が一期一会～ <http://ameblo.jp/eichi-eru>



「界に人が集まらないとも考えていないんです」と言うのは、東京都武蔵野市で訪問介護事業所1カ所と併設の居宅介護支援事業所、同じく都下で通所介護事業所3カ所を展開する株式会社はっぴーライフ代表取締役社長の辻川泰史さんです。2002年、施設、在宅介護の現場を経て24歳という若さで起業。年間300人以上もの応募者が集まる「人材難」とは無縁の事業所へと成長させました。

「身体介護（30分以上1時間未満）は、402単位です。時給4020円の仕事ってありますか？ 確かに私も生活援助（同）の208単位は低すぎると思っています。生活援助はその人のやり方、暮らし方に合わせながら自立をサポートしていく仕事ですから、身体介護以上に個性が高くむずかしい。個人的には身体介護と生活援助の区分を一本化して、中間を取ってプラスαするくらいの単位数が妥当と考えていたので、今回の改定に特段不満はありません。限られた財源のなか、よく練られた改定だと思えますよ」

サ責の加算や特定事業所加算



デイでの様子

## はっぴーライフ

若い世代がカッコイイと  
憧れるような  
事業所に!



武蔵野事業所



研修会をひんぱんに開き、質の高い  
サービスを心がける

の算定要件の見直しについても「特に感想はないです」とクールな回答。それは、仕事がかきつい、給料が安いといった負の面ばかりが強調されがちな介護業界に蔓延する空気を、若い力で変えていきたいという、強い意欲の裏返しのようにも聞こえました。

## 職員も経営者も コスト意識や自己研鑽が まだまだ甘い

辻川さんは、今の介護業界の現状について「事業主側も働く

側もコスト意識や自己研鑽に対する意識が低い」と指摘します。「例えば、居酒屋に入って『ビールはいくら?』と聞かれて『わかりません』って答える店員がいますか。今日どれだけ売り上げたかわからない管理職も少ないと思います」

はっぴーライフでは訪問介護でも通所介護でも、職員には関係する単位数をすべて暗記させているそうです。それは、「私の今日のサービスにはいくらかかっているの?」と利用者に聞かれたときにすぐ答えられないようでは、サービス業としておかしいと思うから。

「まして、介護サービスは他の業種と異なり、利用者様のお財布から1割を、9割を保険料と税金からいただいているんです。自分が提供したサービスは対価

に見合ったものなのか、自分は何だけ売り上げているのか、そういう視点を持つのは当たり前のことだと思います」

「介護職はキャリアパス、将来設計が描けない」といった声もよく耳にしますが?

「利用者様にしていくように、自分についても短期、中期、長期の目標を立てていますか? それをどんどんアピールしましょうよ。トップが聞く耳を持たないなら、起業したっていい。そういうやる気のある人を私はどんどん応援していきたいですね」

はっぴーライフの職員の給料

## いかに 「カッコイイ」姿を 若者に見せられるか

さて、先に紹介した「応募者

は業界平均より15%ほど高いとか。なかには月給18万円のヒラ社員からスタートして、5年で役員になり40万円前後までアップした人もいます。辻川さんの経営手腕による部分も大きいと思われませんが、努力した人、能力のある人に報酬をきちんと付けていこうという姿勢が明確に示されているのは、働く側にとっては大きな魅力です。

## 現場ヘルパーの声

1

### 古明地千春さん

(サービス提供責任者 介護福祉士)



#### 悩みや喜びを分かち合う仲間の存在

はっぴーライフは「一期一会」をモットーに掲げています。何よりもご利用者様のことを一番に考えていること、そして会社や仲間もスタッフを単なる「頭数」としてではなく、悩みや喜びを分かち合う「人間同士」として見てくれることが、互いの成長につながっていると感じます。

最近、介護業界が暗いイメージで報道されていることで、この業界をめざしている人たちが自信を失っていないか、とても心配です。私はこの仕事をずっと続けていきたいし、これからも私たちの仕事が、ご利用者様の快適な生活につながっていることや、仕事のすばらしさをたくさんアピールしていきたいと思います。

が途切れない事業所」の秘訣。それは、はっぴーライフのサイトを開けば、説明は不要かもしれない。会社の経営理念やサービス風景、テレビ放映等の記録……動画を駆使した、躍動感あふれるホームページ。辻川さん自身を含め、ケアマネジャー、サ責など管理者クラスの職員は皆、ブログ開設が必須で、週に一回以上、自動的に更新を行っています。

「利用者様やご家族にも見てもらうものとして、きちんとしたサイトをつくりたかった。今は、若い世代への情報発信も強く意識しています」

事業所設立当初は、利用者の獲得と従業員の確保に苦労したという辻川さん。このサイトが、事業所に合う人材を呼び込み、利用者を選ばれる事業所へと同社を成長させることにつながりました。「カッコよくて、人に喜んでもらえる仕事。働く仲間もイキイキしてる」

「それもまたこの業界の確かな一面であることに、私たちはもっと期待していいし、見習うべき点が多くあると感じます。」